

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第5号 果 樹

発行日 平成21年 7月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

りんごの肥大は順調！早生品種の適切な収穫前管理を！

ぶどうは品質向上のため、適切な着果管理を！

8月は低温・多雨・寡照の予報！受光体制の確保と排水対策、病害虫防除の徹底を！

りんご

1 生育状況

定点観測結果(表1)による果実肥大(横径)状況を県平均で見ると、平年をやや上回って前年並となっており、総じて順調に生育しています。なお品種別では「ふじ」の肥大が良好な傾向となっています。

表1 県内の定点観測ほ場における果実肥大(横径)状況(7月21日時点)

(単位:mm)

市町村	地区	つがる(わい性樹)					ジョナゴールド(わい性樹)					ふじ(わい性樹)				
		本年(H21)	前年(H20)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H21)	前年(H20)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H21)	前年(H20)	平年	前年比(%)	平年比(%)
岩手県農業研究センター		63.8	68.8	64.4	93	99	59.7	64.9	63.5	92	94	56.6	60.8	56.4	93	100
岩手町	一方井	59.7	60.7	60.7	98	98	59.4	61.7	61.2	96	97	56.9	58.2	53.1	98	107
盛岡市	三ツ割	62.5	63.8	62.6	98	100	60.3	64.7	63.0	93	96	56.4	58.6	56.0	96	101
紫波町	長岡	64.5	67.6	66.5	95	97	65.7	64.6	64.1	102	102	60.8	58.2	57.7	104	105
花巻市	中根子	70.7	68.0	63.3	104	112	67.9	69.4	64.9	98	105	61.2	63.6	55.4	96	110
北上市	立花	74.3	74.3	68.0	100	109	72.2	69.3	67.7	104	107	63.1	65.9	60.8	96	104
奥州市	前沢区稲置	72.7	67.7	66.5	107	109	64.5	64.3	64.7	100	100	61.0	61.4	58.8	99	104
	江刺区伊手	63.5	62.3	60.8	102	104	62.0	63.2	62.6	98	99	54.6	55.0	54.0	99	101
一関市	花泉町金沢	67.5	65.1	64.7	104	104	64.7	67.7	63.4	96	102	58.0	55.6	55.0	104	105
	大東町大原	64.5	69.0	63.3	93	102	63.2	63.8	61.2	99	103	59.8	56.1	55.9	107	107
陸前高田市	米崎	66.8	66.3	64.1	101	104	60.1	58.0	61.3	104	98	54.3	54.2	55.4	100	98
宮古市	崎山	62.5	59.2	60.4	106	103	62.6	64.8	62.1	97	101	60.6	59.0	55.5	103	109
岩泉町	乙茂	60.8	74.5	61.7	82	99	62.9	62.8	56.9	100	111	62.3	60.6	54.5	103	114
洋野町	大野下長根	58.9	55.9	55.7	105	106	58.4	55.7	56.9	105	103	53.9	51.2	50.3	105	107
軽米町	高家	63.9		59.0		108	58.6		59.7		98	55.1		50.2		110
二戸市	釜沢	63.7	61.7	61.8	103	103	58.5	65.4	62.9	89	93	58.3	55.6	53.9	105	108
県平均値(参考)		65.1	65.4	62.6	99	104	62.7	64.0	62.2	98	101	58.4	58.1	55.1	101	106

県平均値に農研センターのデータは含まれていない

2 管理作業

(1) 摘果の見直し、誘引、徒長枝の整理

仕上げ摘果がほぼ終了し、これから見直し摘果になります。着果の多い部分や病虫害果、傷果などを摘果して行きます。「ふじ」では、生育不良果が見えてきますので、随時摘果します。

樹体管理では、枝の誘引、徒長枝の間引きなどを行い、樹冠内部の日光や薬剤のとおりを良くします。また、台風などに備えて、支柱との結束の確認、圃地の排水対策を行いましょう。

(2) 早生種の着色管理

- ア 早生種の葉摘み開始時期は、収穫予定の10~20日前です。
- イ 果そう葉を中心に、最初は軽く2~3枚程度摘みます。
- ウ 陽光面の着色が進んだら、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを行うとともに、適度な強さに葉を摘みます。必要以上の葉摘みは、逆に着色が進まないのを避けます。
- エ 着色適温は15~20℃です。残暑で最低気温が20℃を越える日が続く場合は、いくら葉を摘んでも着色が進み難くなりますので注意してください。

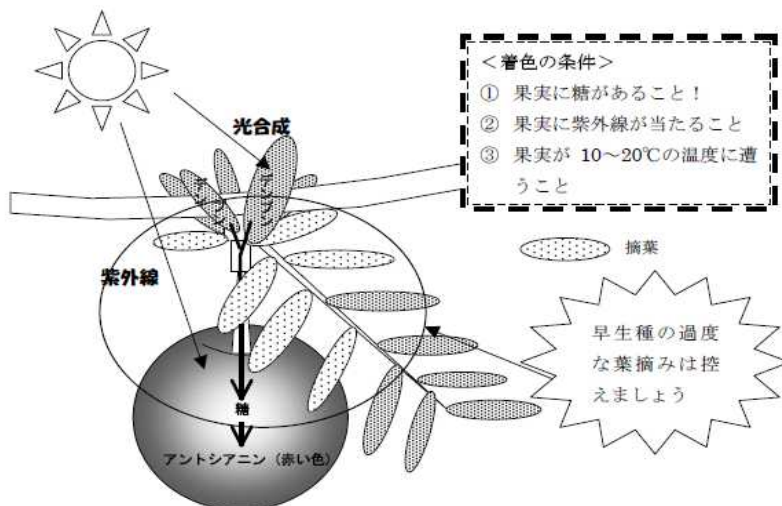


図1 りんごの着色の模式図

(3) 落果防止剤の散布

収穫前落果しやすい「つがる」や「きおう」には、落果防止剤を上手に使用して落果を抑えましょう。使用法は表2のとおりですが、登録内容を確認のうえ使用してください。特に「きおう」の内部裂果で早めに熟す果実の取り扱い、農薬安全使用基準に違反しないよう厳重に注意してください。

表2 落果防止剤について

対象作物	商品名	使用基準		使用方法	使用上の留意事項
		使用時期	本剤の使用回数	散布量・濃度	
りんご	ストップール液剤	収穫開始予定日の25日前~7日前	1回	1,000~1,500倍・300~600L/10a	(1)落果防止効果は散布後5~7日目から始まり、3~4週間目まで持続する。 (2)展着剤は不要。 (3)登録上の使用回数は2回以内である。
	マデック	収穫開始予定日の25日前及び15日前	2回	6,000倍・300~600L/10a	(1)持続性が弱く、落果が始まると止める力はない。 (2)展着剤を加用する。

共通の留意事項

- 着色、熟期が促進されるので、過熟にならないよう適期収穫に努める。
- 薬剤が葉先からしたり落ちる程度に樹全体にむら無く散布する。
- 他剤との混用は避ける。
- 周辺作物にかからないよう注意し、使用後の散布器具は十分洗浄する。

(4) 新規落果防止剤(1-ナフタレン酢酸ナトリウム水溶剤、商品名：ヒオモン水溶剤)について
平成21年6月4日付けで、新規の収穫前落果防止剤であるヒオモン水溶剤が農薬登録されました。本剤の落果防止効果の発現は比較的早く、その効果は散布後3週間程度は持続すると考えられており、ストップール液剤と同等の効果は期待できると思われま(表3)

登録内容は表4のとおりですが、**希釈倍数によって使用時期・使用回数が異なりますので、使用時は十分にご注意ください。**

なお本剤の特性は未確認の点多いため、本県における効果的な使用法については、現在岩手県農業研究センターにて検討中です。

表3 「きおう」におけるヒオモン水溶剤の落果防止効果 (2006 岩手農研)

供試薬剤 / 処理日(収穫予定前日数)	供試倍率	処理回数	全着果数(果)	累積落果率(%)		
				~収穫予定3日前	~収穫予定日	~収穫予定2日後
ヒオモン水溶剤 / 7日前	1,000倍	1回	328	1.2	3.7	4.3
21日前	1,000倍	1回	358	0.3	6.5	7.9
21日前+その10日後	2,000倍	2回	238	2.1	2.5	2.5
ストップール液剤 / 7日前	1,000倍	1回	233	3.0	4.3	4.3
21日前	1,000倍	1回	254	0.0	0.4	1.6
無処理対照	-	-	216	3.2	31.9	50.5

注) 収穫予定日: 9月11日

表4 ヒオモン水溶剤の使用方法について

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	1-ナフタレン酢酸を含む農薬の総使用回数
りんご	収穫前落果防止	1,000~1,500倍	300~600 L/10a	収穫開始予定日の21~7日前	1回	立木全面散布	2回以内(4.4%水溶剤の1000~1500倍希釈散布は1回以内)
		2,000倍		収穫開始予定日の21~14日前及びその7~10日後	2回以内		

留意事項

使用の際は単用で樹全体にむらなく散布する。

周辺作物にかからないよう注意し、使用後の散布器具は十分洗浄する。

1,000~1,500倍で使用する場合は、総使用回数1回を遵守する。

2,000倍で2回使用する場合は、収穫開始予定日の21~14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから必要に応じて1回目の散布7~10日後に2回目の散布を行うこと。

本剤の効果が確認されている品種は、平成21年6月4日現在「きおう、つがる、王林、紅玉、陽光」である。これに記載した品種以外に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分に確認してから使用すること。

(5) 夏期せん定(わい性樹)

- ア 樹勢の強い樹を対象に、8月下旬～9月上旬にかけて行います。
- イ 側枝の上面から発生している30cm以上の直上枝を間引くほか、30cm以下の新梢でも枝量と混み具合をみて日光、薬剤が通る程度に適宜間引きます。
- ウ なお、過大な夏期せん定は樹勢を弱めるため、紋羽病の発病誘因となることがありますので、発病の恐れのあるところでの夏期せん定は最小限にとどめてください。

3 病害虫防除

夏期は、斑点落葉病、褐斑病、果実腐敗性の病害(輪紋病、炭そ病等)、ハダニ等の発生に要注意です。よく観察して適期防除を行いましょう。

早生品種の収穫が近づいていますので、8月の薬剤散布は、**安全使用基準の収穫前日数をよく確認**して、間違いの無いよう注意しましょう。除草剤についても同様です。

ぶどう

1 生育状況

紫波町赤沢の定点調査結果(表5)における「キャンベルアーリー」の生育で、結実率は開花期間中の不順天候の影響等により平年・前年を下回っており、この傾向は他の地域でも確認されております。なお7月25日時点の新梢長、葉数、房長、粒径については、平年・前年を上回っており、概ね順調な生育となっています。

表5 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(定点調査地点:紫波町赤沢)

調査年次	結実率(%)	7月25日時点の生育			
		新梢長(cm)	節数(葉数)	房長(cm)	果径(mm)
本年(H21)	31.3	137.6	17.9	16.3	18.1
平年(平均)	47.2	132.2	16.9	15.2	17.1
前年(H20)	41.2	122.9	15.5	14.6	17.7
平年差・比	-15.9	104%	106%	107%	106%
前年差・比	-9.9	112%	115%	112%	102%

2 管理の要点

(1) 摘粒

果房の形を整え、品質を向上するため、着粒の多い密着房、裂果粒、病虫害果粒を中心に摘粒を実施します。

《1房当たり粒数の目安》

キャンベル、ナイアガラ、サニールージュ・・・70粒 ノースレッド・・・60粒程度
紅伊豆、ハニーブラック・・・30～40粒 安芸クイーン・・・25～30粒

(2) 摘房

果実の糖度や着色など品質を向上し、樹体の養分の消費を防ぎ、翌年の花芽の充実を良くするため、適正着房数を目標に摘房を実施します(表6参照)。

「キャンベル」では、最終的には一坪(3.3m²)当たり、新梢数20本、着房数27～30房が基準となります。樹勢が弱い場合は、1房当たりに必要な葉数を参考に、葉数に応じて着房数を制限して下さい。

「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」などの大粒種では、樹勢をコントロールする

目的で1新梢2房としている場合がありますが、そのまま着色期以降までおくと、着色や糖度の上昇が遅れ品質を損なうばかりではなく、樹体が凍寒害の被害を受けやすくなりますので、着色開始を目途に最終房数としていきます。

表6 「キャンベル」の収量構成要素

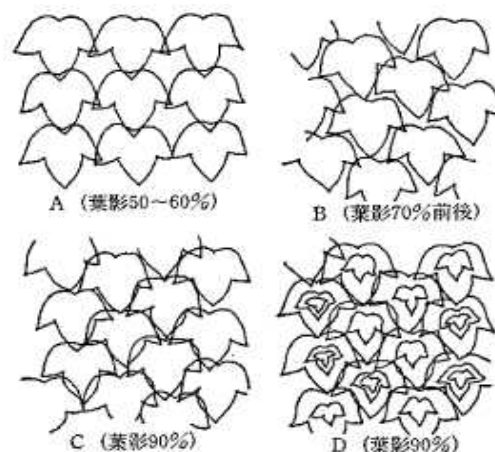
品種	新梢数 (本/坪)	着房数		必要な葉数	目標収量 (kg/10a)
		(房/坪)	(房/本数)		
キャンベル	20	27~30	1.35~1.5	1房:12~16枚	2200
				2房:17~22枚	
紅伊豆、ハニーブラック 安芸クイーン等	15	10~12	0.67~0.2	-	1200(紅伊豆) 1100(他)

(3) 新梢管理

棚面を明るくして果房の着色を向上し、樹勢をコントロールして養分の浪費を防ぐため、勢力の強い新梢を中心に間引きや摘心を行います。

硬核期以降(7月下旬以降)に実施しますが、赤色系品種、紫色系品種、白色系品種の順に棚面を明るくするようにします(図2参照)。

短梢栽培では、葉数確保のため副梢についても基部から2~3枚の葉を残して摘心していきます。しかし、混み合っている場合は適宜間引いてください。



- A. 赤色直光着色品種(紅伊豆等)
- B. 黒色及び散光品種(キャンベル、テラウアなど)
- C. 白色品種(ナイアガラなど)
- D. 副梢葉(房の付近1~3枚)

図2 適度な棚の明るさを示す葉の配列模式図(土屋、1956)

3 病虫害防除

病虫害の発生状況に応じて防除を実施しますが、収穫が間近になってきております。農薬の使用基準(収穫前日数、散布濃度、使用回数)に十分留意してください。

薬剤によっては、果粉の溶脱、果面の汚れなど品質を損ねることがありますので、薬剤を選択する際は注意してください。

次号は8月27日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日~8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
農薬の保管・管理は適切にしましょう